

## 第 24 回縮小社会研究会の報告

### 参加者 52 名

石田葉月さんの講演は、「エネルギーの埋蔵量は無限にあるが、それがE P R（採掘されたエネルギーと採掘に要するエネルギーの比）が大きいかが問題であり、すでにE P Rの大きいエネルギーは枯渇しつつある。現在の文明は輸送に依存しており、そのエネルギーが重要である。エネルギーを削減しながらG D Pを増やすのは不可能ではないか」というもので、縮小の必然性を再認識させるものであった。

トッテンさんの講演は「失われた 25 年といわれ、1000 兆円の借金があるが、政策で回避できた可能性がある。政策でそれらは解決できる。国営通貨、エネルギー税や累進消費税なども有効である。また、憲法九条を守り、T P Pの罨にはまらないこと、経済成長よりも国民の幸福、足るを知る、晴耕雨読が重要である。さらに、自身の省エネ、自給自足生活の紹介」であった。日本人が気のつかないことや、忘れていることを実践しておられます。個人的に印象に残ったのは、食用にウサギを飼っており、ウサギは静かで成長効率が良いとのことであった。この講演内容は下記で見ることができます。

[http://www.ashisuto.co.jp/corporate/information/bill-totten/\\_icsFiles/afieldfile/2014/02/28/2014syunki\\_lecture\\_text.pdf](http://www.ashisuto.co.jp/corporate/information/bill-totten/_icsFiles/afieldfile/2014/02/28/2014syunki_lecture_text.pdf)

時：2014年9月27日

所：京都大学農学部総合館 W106（地図は下記）

13：30-14：30 「今一度、縮小社会研究会の役割を考える」

石田葉月（同志社大学経済学部）

縮小社会への移行を阻むものは何か。その背後には根強い「経済成長信仰」あり、そして、技術に対する過大な期待がある。縮小社会研究会は、技術をどう捉え、市民とどのように対話していくべきなのか。再生可能エネルギーや ICTなどを例に考えてみたい。

14：30-16：00 「本当はもっとよくなるニッポンの未来」

ビル・トッテン（賀茂川耕助）（㈱アシスト社長）

かつて高度経済成長を経験した日本は、失われた 25 年と呼べるほど落ち込み続けている。なぜアベノミクスは国民を幸せにすることができないのか。国の財政や税制の視点から原因とその解決策を提言したい。

16：00-17：00 討論

一般社団法人縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前 21 石川ビル 305

e-mail: [jimukyoku@shukusho.org](mailto:jimukyoku@shukusho.org) HP: <http://shukusho.org/>

